

2021年度 京都教区教化研修計画概要**教区教化テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」**

(趣旨文の中から)

教区教化とは、地区や組と連動しながら、教区人が集い、出遇い、共に学び、現場で立ち上がる熱と力をもらう「場」である。そして、「出向く教化」という現場へのベクトルを大切にし、寺院が仏法に出遇う「場」として開かれ続けることを目指すものである。

「教区教化は教区人の手で」

それは、自分たちの手で教区教化を作り上げていくこと。そして、「教化」である限り、そのすべてにおいて、私一人が念仏申す身になることが願われている。

基調講義テーマ「浄土真宗の教化とは」**① 設立の願いに立ち返る姿勢が、教化本部を生かし続ける。**

①教化本部は、教区人の願いが根底にある。輪の広がりを求めることの大切さ。

②第一に、仏法に対して謙譲であること。

③「今、私は如来の本願に動かされているか」という問いが基本。

② 私の教化委員会との出会い。

①北海道教区には、

教区教化委員会・(道南・道央・道北・道東の四地区の)地区教化委員会・

組教化委員会がある。……私自身、教化委員であったときの危うさ。それは開催者の側に立つことによって、自らが聞法の間をいただいていることを忘れてしまうこと。

②教区教化委員会の事業によって、教区を超えた諸先生との出会いの場が開かれるという恩恵。

③会議での議論を通して 教えられ育てられること。

③ 教化は教導感化、教導化益の意とされる。宗祖の生涯から「教化」ということを考える。

①仏の教化…「無量の衆生を教化し度脱して、みな道を得せしめて」

(『大経』聖典9頁)

「しかれば『大経』には「若聞斯経 信楽受持 難中之難 無過此難」(もしこの経を聞いて信楽受持すること、難きが中に難し、これに過ぎて難きことなし…楠記)とおしえたまえり。この文のころは、「もしこの『経』をききて、信ずること、かたきがなかにかたし、これに過ぎてかたきことなし」とのたまえる御のりなり。釈迦牟尼如来は、五濁悪世にいでて、この難信の法を行じて、無上涅槃にいたると、ときたまう。さてこの智慧の名号を、濁悪の衆生にあたえたまうとのたまえり。十方諸仏の証誠、恒沙如来の護念、ひとえに真実信心のひとのためなり。」

(『唯信鈔文意』聖典556頁)

「舍利弗、当に知るべし。我五濁悪世にして、この難事を行じて、阿耨多羅三藐三菩提を得て、一切世間のために、この難信の法を説く。これをはなはだ難しとす。」

(『仏説阿弥陀経』聖典133頁)

「しかるに常没の凡愚・流転の群生、無上妙果の成じがたきにあらず、
真実の信樂^{まこと} 實に獲ること難し。何をもつてのゆえに。いまし如来の加威
力に由るがゆえなり。博^{ひろ}く大悲広慧の力に因るがゆえなり。

(「信卷」聖典 2 1 1 頁)

「一一の光明遍く十方世界を照らす。念仏の衆生を攝取して
捨てたまわず。」

(『觀經』聖典 1 0 5 頁)

「相好ごとに百千の ひかりを十方にはなちてぞ
つねに妙法ときひろめ 衆生を仏道にいらしむる」

(『浄土和讃』聖典 4 8 2 頁)

㊤自信教人信…「仏世はなはだ^{もろ}値^あい難し、人信^{しん}慧^えあること難し。たまたま希有の法を
聞くこと、これまた最も難しとす。自ら信じ人を教えて信ぜしむ、
難きが中に^あ転^また^る更難し。大悲、弘^{ひろ}く普^{あま}く化^まする、真^{まこと}に仏恩^{ぶつおん}を報ずる
に成る、と。」

(『往生礼讃』、「信卷」聖典 247 頁に引かれる)

㊦知恩報徳の益…「現生十種の益」の第八 (「信卷」聖典 2 4 1 頁)

「法^{のり}をきく みちにこころの さだまれば

南無阿弥陀仏と となえこそすれ……

……慶喜金剛の信心のうえには、知恩報徳のこころをよみはんべりし
なり。」

(『御文』四帖目四通 聖典 8 1 8 頁)

㊧無辺の生死海を尽くさん……法義相続

『安樂集』に云わく、真言^{しんごん}を採^とり集めて、往益^{おうやく}を助修^{じょしゅう}せしむ。何とな
れば、前^{さき}に生まれん者は後^{のち}を導き、後^{のち}に生まれん者は前^{ひと}を 訪^{さき}え、連続^{とぶら}無窮^{れんぞくむぐう}
にして、願^くわくは休^し止^せせざらしめんと欲^{ほつ}す。無辺^{しやうじかい}の生^つ死海^{かい}を尽くさんが
ためのゆえなり、と。已上

(「化身土卷・末」聖典 4 0 1 頁)